

令和3年度 栄区セーフコミュニティ推進協議会 こども安全対策分科会
【書面開催】

次 第

1 開 会（栄区子ども会連絡協議会 片岡座長より）

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、委員の皆様とお顔を合わせる機会をもつことができず、大変残念に感じております。委員の皆様が運営される団体の多くも、活動の制限を余儀なくされているのが現状かと思えます。

また、コロナ感染終息後には皆様とともに、意欲的に活動を進めていければと願っております。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

2 議 事

(1) 令和3年度の取組（中間）報告について 資料1

令和2・3年度の取組について、報告をさせていただきますので、ご確認ください。

3年度に新たな取組として実施しました、KYT 出前講座の報告書と使用した資料を添付しています。ぜひご覧ください。

(2) 令和2年度 栄区学校・乳幼児養育者向けアンケート 集計概要 資料2

令和2年度に、学校と乳幼児の養育者に向けて、アンケートを実施しましたので、結果をご確認ください。

3 閉 会（栄区こども家庭支援課 学校連携・こども担当課長 富田より）

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、対面での分科会の開催がかなわず、残念に思っております。皆様のご協力のおかげで、コロナ禍においても、できる範囲で活動を行うことができ、大変感謝しております。

新年度を迎えましたら、セーフコミュニティ事業の今後の方向性について、情報提供をさせていただく予定です。皆様からもご意見を頂戴したいと思っております。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

1年間ありがとうございました。

第1回 スポーツ安全対策分科会 会議録	
日 時	令和3年5月20日（木）午後7時から
開催場所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	委員：白川座長、中野委員、三谷委員、青木委員、和田委員、伊藤委員、大塚委員、松尾委員、末村委員、松永委員、田村委員 （欠席者：片岡委員） 栄区役所（地域振興課）：近堂、細井、瀬川 （区政推進課）：永松、高橋
議 題	1 座長の選出について 2 セーフコミュニティ推進事業の方針について 3 令和3年度 分科会の活動内容について
議 事	1 座長の選出について 互選により、栄区体育協会の白川会長が座長として選任された。 2 セーフコミュニティ推進事業の方針について 区政推進課職員から説明があった。 3 令和3年度 分科会の活動内容について (1) 専門家を交えた取組として、次の事業を専門機関と調整したうえで実施することとした。 ア 昨年度実施した、区内スポーツ活動指導者等の有害事象やヒヤリハット経験についてのアンケート分析結果共有会（実施時期は秋以降） イ 運動中のけが・事故予防のための広報物作成 ウ けが・事故予防のための講習会（実施希望団体があった場合） (2) ウォーキング講習会については、社会情勢を見ながら可能であれば実施することとした。 (3) 分科会だよりの発行について 分科会の活動内容について分科会だよりを作成し、広く周知を図る。
次回予定	第2回スポーツ安全対策分科会 日時：未定
資 料	スポーツ安全対策分科会だより第9号

1 報告事項

(1) 専門家を交えた、より効果的な取組について

ア アンケート分析結果共有会の開催

(ア) 日時・会場等

令和3年12月17日(金) 19時～21時55分

あーすぷらざ2階 プラザホール 参加者：53名

(イ) 内容

- ・令和2年度に分科会構成団体の指導者・支援者を対象に実施した、「過去3年間の有事事象・ヒヤリハットの有無について」のアンケート結果を参加者で共有した。
- ・講師(アドバイザー)として、慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授 小熊 祐子さん、研究員 平田 昂大さんをお招きした。
- ・アンケート結果に対する意見交換や、2021年11月分から実施する「スポーツ活動時に発生した事故やけが報告カード(以下、事故報告カードという。)」に関する質疑応答などを行った。

—参考—

令和2年度実施アンケートの主な結果

- ・回答数：108件
- ・回答者：分科会構成団体の指導者・支援者
回答者のうち、何らかの救命に係る資格保有者 57件(53%)
- ・過去3年間の有害事象の報告：45件(けが26件、転倒13件、その他6件)
- ・けが：足関節・足部が最も多い(約30%)。次いで下腿部、手関節・手部
- ・転倒：スポーツ活動中11件、移動中2件
- ・その他：熱中症が疑われる事例4件、めまい1件、意識障害1件
- ・過去3年間のヒヤリハットの報告：24件
- ・コロナ禍により、1年間の活動期間は例年に比して短かった可能性あり
→有害事象の発生件数を過小評価している可能性も。

イ 運動中のけが・事故予防のための広報物作成

慶應義塾大学に、内容提案等をお願いし、動画を2本作成(3月下旬完成予定)

- ・けが・事故予防のためのウォーミングアップ(約20分)
- ・けが・事故予防のためのクーリングダウン(約20分)

完成後、YouTubeの横浜市アカウントで公開予定

ウ けが・事故予防のための講習会等

(ア) 各構成団体への講師訪問

新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施できず。

(イ) 事故報告カードの作成

運動中のけが・事故予防を目的に、各団体が実施するスポーツ事業やイベントを対象に、11月から定期的な有害事象・ヒヤリハット調査を実施。「事故報告カード」を作成して分科会の構成団体に回答を依頼した。(回答先は事務局)

なお、事故報告カードの記載内容は、慶應義塾大学から提案を受けた。

【回答方法】

- ・栄区体育協会
専門部会ごとにハガキで毎月報告（活動の有無、事故の有無にかかわらず。）
- ・栄区スポーツ推進委員連絡協議会、栄区青少年指導員協議会
前月分の活動実績等について翌月の定例会にて報告（活動があった場合のみ）
- ・（NPO）さかえスポーツくらぶ
活動人数等については、四半期ごとに報告。ただし、けが・事故・ヒヤリハットがあった場合は、その都度報告
- ・栄区さわやかスポーツ普及委員会
スポーツ事業やイベントを実施した場合は報告（事故の有無にかかわらず。）
- ・栄スポーツセンター
スポーツ事業やイベントについて翌月15日までに報告

(ウ) 栄区体育協会でのPR

11月の栄区体育協会常任理事会に事務局が参加。慶應義塾大学の平田研究員とともに、アンケートの必要性PRや、回答方法説明を実施した。

(2) ウォーキング講習会の開催

・ウォーキング講座

(実施予定概要) 1月30日(日) 午前10時～ SAKAESTAにて 定員20名
講師 栄スポーツセンター所長

↑中止となった。(新型コロナウイルス感染症の影響による。)

・動画作成

栄スポーツセンター協力のもと動画を作成(3月下旬完成予定)

「安全で効果的なウォーキング～準備とポイント～」(約11分)

完成後、YouTubeの横浜市アカウントで公開予定

2 お知らせ(今後の予定)

(1) 分科会だより第10号について

令和3年度の取組を記載(案は別途作成し提案予定)

令和4年度の春に3,000枚印刷して配布してはどうか。

(2) 令和4年度の取組について

(具体的には、令和4年度第1回分科会で検討予定)

(案1)

専門家を交えた、より効果的な取組として

ア 「事故報告カード」による定期的な有害事象・ヒヤリハット調査（継続）

イ 運動中のけが・事故予防の広報物（リーフレットもしくは動画など）作成

ウ けが・事故防止のための講習会（各構成団体へ講師が訪問して実施など）

(案2)

ウォーキング講習会の開催（年1回）（場所：要検討）

(案3)

分科会だより第10号の発行

添付資料

- 1 令和3年12月17日実施アンケート共有会 アンケート集計結果
- 2 事故報告カード
- 3 スポーツ安全対策分科会だより 第10号 掲載記事イメージ図

令和3年度 第1回 交通安全対策分科会会議録	
日 時	令和3年4月15日(木) 10時30分から
開催場所	栄区役所本館4階2号会議室
出席者	委員：平間、駒田、輿石、森、小野、田中、牧野、馬場、大谷(敬称略) 事務局：近堂、石塚、村田、鶴池
議 事	<p>1 セーフコミュニティ推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区政推進課よりセーフコミュニティ推進事業について説明があった。 <p>2 令和2年度交通安全活動報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より令和2年度に開催された交通安全キャンペーンについて報告があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からマスクや手袋を着用等、実施方法を変更し、啓発活動を行った。 <p>3 令和3年度交通安全活動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より9月までの交通安全キャンペーンの連絡があった。新型コロナウイルス感染症の状況も考慮しながら実施する。 <p>4 栄区内の交通事故発生状況について(栄警察署からの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄警察署より現在までに発生した交通事故に関して情報提供があった。コロナウイルス感染症の影響により交通事故発生件数も低く推移しているが、4月は、子どもの飛び出しによる交通事故が増えていると報告があった。 <p>5 令和2年度セーフコミュニティ交通安全分科会の活動報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より令和2年度交通安全対策分科会の取り組みについて実施報告があった。 <p>6 令和3年度セーフコミュニティ交通安全対策分科会の活動計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度セーフコミュニティ交通安全対策分科会の取り組み内容及び方針について報告があった。引き続き新型コロナウイルス感染症の状況も考慮しながら実施する。 <p>7 幼児の自転車用ヘルメット着用率調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に栄区内市立保育園4園に御協力いただき、集計した結果を報告した。園児の7割がヘルメットを着用しているという結果がわかった。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年3月末の栄警察署管内人身交通事故発生状況(概数) ・交通安全に関するチラシ【栄警察署】



WHO 推奨国際認証都市

栄区セーフコミュニティ推進協議会
交通安全対策分科会

日時：令和4年2月10日（木）交対協幹事会終了後
会場：栄区役所 本館4階2号会議室

- 1 活動報告について

- 2 活動計画について

- 3 栄区内の交通事故発生状況について

- 4 「栄区交通安全通信」発行について

- 5 今年度の振り返り

- 6 その他

次回開催日：4月 日（ ） 幹事会終了後

令和3年度 第1回 さかえっ子の笑顔ひろげ隊定例会

令和3年5月11日 16:00～

参加者：主任児童委員（宮崎さん、北野さん）、にこりんく（松本施設長）、フレンズ☆SAKAE（岩堀さん）、社協（荻野さん）、区（広瀬係長、竹村、三部）（敬称略）

1 自己紹介

2 セーフコミュニティ推進事業の方針について（配布資料「セーフコミュニティ推進事業の方針について」参照）

区政推進課 永松課長、高橋係長、安井さん

3 前回事務局打ち合わせの確認（議事録参照）

3 いのちの授業について

【配布アンケートについて】

- ・内容は対象、目的に対して適切
- ・改行、空欄、番号書式等整える
- ・説明文やや長いか
- ・どこまで配布時に教員が説明してくれるかが疑問

→資料については校長会にてご意見を貰いながら、改善していく

【今後の予定について】

6月 アンケート回収（6月30日締切）

7月 アンケート集計・質問項目決定

（分科会2回目：いのちの授業アンケートの状況など途中経過報告）

8月～ 動画撮影

10月 編集作業（分科会3回目）

11月 動画完成・区民祭り？

12月～ 打合せ・授業実施（分科会4回目）

3月振り返り（分科会5回目）

★随時予定は変更しながらやっていく

【配布・回収の方法について】

配布：原本か印刷されたものか校長会で説明したのち専任に希望を伺う

回収：庁内メールまたは主任児童委員への提出を検討していることを校長会で説明し専任に伺う。

【その他】

今後、両親教室や育児教室で中高生に参加できる機会ができればよいか

4 啓発活動について

直接的に啓発ではないが講座実施予定と報告。

(1) 7月7日(水) 午前 予定

フレンズとにじによる「発達に課題のある子どもに対する性教育」の講義

対象：保護者、支援者

開催の方法：オンラインと対面

(2) 8月16日(月)

よこはまユースプラザの子どもどこでも講座

対象：支援者

5 次回日程 7月27日(火) 15:00～ (場所新館2階201)

令和3年度 第2回 さかえっ子の笑顔ひろげ隊 分科会

令和3年7月27日 15:00～16:30

新館2階 201号室

参加者：主任児童委員（宮崎さん、北野さん）、社協（荻野さん）、区（広瀬係長、竹村、三部）（敬称略）

1 前回分科会の振り返り ～15:05

- ・ 前回議事録参照

2 いのちの授業について ～15:55

○授業の開催について

- ・ 現在のところ、桂台中学校3年生が授業実施希望。

○アンケート集計結果（添付資料参照）

〈アンケートの印象〉

- ・ 育児では母がメインで父は手伝いのイメージが多い。
- ・ 子育てに「つらい」「大変」などのマイナスのイメージを持っている。

○動画質問内容検討

〈動画の方向性〉

- ・ 子育てをして楽しいこと等プラスのイメージの質問を聞いていきたい。
- ・ 母がメインで、父は育児の手伝いをするイメージが多いため、2人で協力している様子や2人で楽しんでいる様子を映したい。
- ・ 自分の生まれた時のことや名前の由来を自宅に帰ってから親に聞いてもらえるように作成したい。
- ・ 父には「手伝っているか」→「分担していること」というやわらかい言葉で質問していく。
- ・ 一番伝えたいことは、大事に育てられていること、安心して父母になってよいということ。

〈質問内容〉

- ・ アンケート内で400票以上の選択式の質問項目。
 - 母：子育てが楽しい、幸せと感ずることは何か。
 - 母：子どもが生まれたときはどのように感じたか。
 - 母：子どもにどのような大人になってほしいか。
 - 父：子どもが生まれてから生活に変化はあったか。
 - 父：いつごろから「父親になった」と感じたか。
 - 父：子育てで楽しい、幸せと感ずることは何か。
- ・ 育児の分担について父母双方に聞く

〈撮影について〉

- ・ 撮影時は、動画作成の背景や使用方法を父母にきちんと説明した方がよい。
- ・ 予め撮影日に撮影内容などを掲示するべきか。

〈検討事項〉

- ① 動画の撮影日：父も積極的に映ってほしい。父の参加が多そうな 8 月お盆前後や、9/11 プレママパパ教室で、プレママパパに見てもらいながらの撮影はどうか。
- ② 撮影の形式：何組かで話している様子を撮るか、個人での様子を撮るか。
- ③ 動画撮影方法：カメラか、個人のスマートフォンか。
- ④ 質問内容：質問数はいくつにするか。項目をいくつか挙げて、父母が答えやすい質問を答えてもらうようにするか。
- ⑤ インタビューを受けてくれた父母への謝礼
- ⑥ 予算：謝礼も含め、動画撮影にかかる予算

○今後のスケジュール確認

8 月-9 月以降動画撮影

10 月編集作業 (分科会 3 回目?)

11 月動画完成・区民まつり

12 月以降? 打合せ・授業実施 (分科会 4 回目?)

3 月? (分科会 5 回目?)

3 区民まつりエコバックについて

～16:00

- ・デザイン案◎
- ・いのちの授業の動画撮影で予算を使うか確認。予算がありそうであれば、エコバックは作る方針へ。
- ・エコバックを配布するのであれば、8 月中に発注が必要。
- ・いのちの授業の動画の予算を踏まえ、予算 10 万を超えない量で作成予定。
- ・昨年度/一昨年度の余りが計 240 部程度あり。活用も検討。

4 啓発活動について

～16:10

- ・フレンズ栄とにじによる「発達に課題のある子どもに対する性教育」の講義
7/7(水)実施
思春期の子の親や支援者が参加。会場 20 名程度+zoom のオンライン実施。
性への興味は、正常な発達のため、過敏にならずに見守ると良いというメッセージ。
- ・よこはまユースプラザ子どもどこでも講座
コロナのため、8/16→11/15 11:00 へ変更。
講師：チダヨウコ様。「中学生の性教育について」

5 その他

〈広瀬係長より〉

- ・7/14SC 推進会議に宮崎さんと参加。上郷地区連合長より、小学生向けに虐待のテーマでアプローチしてほしいと希望あり。今後要検討であり、すぐの実施は困難そう。

6 次回日程

- ・10/5(火) or 10/12(火) 15:00-

令和3年度 第3回 さかえっ子の笑顔ひろげ隊 分科会

令和3年10月12日 15:00～

新館2階 201号室

参加者：主任児童委員（宮崎さん、北野さん）、にこりんく（松本施設長）、フレンズ☆SAKAE（岩堀さん）、社協（荻野さん）、区（広瀬係長、竹村、三部）（敬称略）

1 前回分科会の振り返り（議事録参照）

2 いのちの授業について

【動画について】

- ・一家族の意見しか聞けていないので、他の家族にも聞けるとよいか。
- ・違う意見を吹き出しにして追加してもいいのではないか。
- ・動画撮影、編集作業をフレンズさかえの生徒にも協力してもらえるとよいか。
- ・動画は編集し、長くて20分以内にする必要がある。

【授業内容について】

- ・地域の育児中の家庭に対して中学生でもできることに、中学生が気づけるようにする。
- ・父ができることについても内容に入れ、男子生徒も関心が持てるようにする。
- ・育児の大変さを乗り越えた家庭へのインタビューにより、育児の実際、父母の思いを知ることができる。

3 啓発グッズについて

<作成するもの>

- ・質の良いエコバッグを限定で作り、受け取った人に大切に使うしてもらう。

⇒<ナイロン製、男性でも使えるスタイリッシュな色・デザイン、マチがあるもの、肩掛けできるもの>ができたらい。予算の範囲内でデザインは決めていく。

昨年度までのデザインはSCの文字を削除すれば使用できる。

- ・小学生向けの巾着袋の作成もいいのではないか。
- ・日めくりカレンダー（印刷製本費に含まれる）は将来的に作りたい。

4 啓発活動について

- ・駅前リビング（区政推進課事業）での啓発活動はどうか。
隔月の活動で、今年度余っている啓発グッズを配布していく。
- ・啓発活動時に使用する旗があったらよいか。

5 次回日程 令和3年11月30日（水）15時～

令和3年度 第4回 さかえっ子の笑顔ひろげ隊 分科会

令和3年11月30日 15:00～

新館1階 102号室

1 前回分科会の振り返り

2 いのちの授業について

【実施について】

桂台中学校と調整中。R4年1月27日実施で進めていく。

打合せ日程が決まったら、広げ隊と白水さんに連絡。

学年一度に授業できるのか、クラスごとなのかを確認。

【今後のスケジュール確認】

9月 動画撮影 済み

11月-12月 授業内容検討

12月 動画完成・打ち合わせ (分科会5回目)

1月 打ち合わせ・授業実施 (分科会6回目?)

【授業内容について】

- ・命の誕生の奇跡について伝えたい。
- ・胎児の人形体験はできるといいか。妊婦ジャケットは消毒ができないため、代表者が行うか。
- ・全員が人の手で支えられて生まれてきたということを伝える。
- ・桂台中学校のアンケートの内容を授業で触れる。
- ・フレンズさかえからのメッセージの時間は最後に設ける。フレンズさかえの居場所機能について紹介。主任児童委員、にこりんく、社協は、自己紹介で各機関について紹介。

【その他】

ビデオを作成してくれた高校生に気持ちで謝礼を渡したい。

3 啓発グッズについて

【エコバックの調査状況】

- ・『ノベルティグッズ専門店 万来』では230円/個で作成可能。
- ・『BLAST』でも250円で作成可能。見本品が先に見られ、修正が可能。

【デザイン案】

- ・今年度のデザインではなく、昨年度のデザインを利用。セーフコミュニティのロゴは入れられないため、タッチーとキャッピーで交互にして○を埋める。『さかえっ子の笑顔広げ隊』
- ・バッグ紺色×文字白

4 啓発活動について

【駅前リビングの振り返り】

- ・150部、1時間程度で配布。啓発活動を5名で行った。
- ・途中小雨が降ってきた。パラソルは必要。
- ・広げ隊の活動がわかる、パネルなどが置けるとよいか。
- ・啓発物品に対し、「いくら？」と聞かれた。
- ・区役所職員と間違えられ、マイナンバーのこと等を聞かれることがあった。襷などが作成できるとよいか。
- ・1月は中止とし、次回3月に実施する。4～5名が参加できればいいのではないか。

【今後の啓発活動】

- ・かじがや子ども会 20部
- ・子育て支援団体連絡会 40部

5 その他

- ・第1回栄区フードパントリーについて：必要な人に周知をお願いいたします。
- ・ヤングフェスは中止。

6 次回日程 R3年12月24日（金）15:30～

令和3年度 第5回 さかえっ子の笑顔ひろげ隊 分科会

令和3年12月24日 15:30～

新館2階 201号室

参加者：主任児童委員（宮崎さん、北野さん）、にこりんく（松本施設長）、フレンズ☆SAKAE（岩堀さん）、社協（荻野さん）、区（広瀬係長、竹村、三部）（敬称略）、横尾ゆうなちゃん

1 前回分科会の振り返り

2 いのちの授業について

【今後のスケジュール確認】

12月 動画完成・打ち合わせ（分科会5回目）

1月 打ち合わせ（分科会6回目）

1月25日（火） 授業実施

打合せを1月中旬で調整し、分科会6回目で最終確認する。

【12月打合せ報告】

別紙参照

【いのちの授業当日担当者】

主任児童委員（宮崎さん、白水さん、未定）、にこりんく（松本施設長）、社協（荻野さん）、フレンズ☆SAKAE（岩堀さん）（14時到着予定）、区（広瀬係長、竹村、三部）

【授業実施の流れ】

講義・動画 ⇒ 休憩 ⇒ 体験（妊婦体験ジャケット⇔オムツ交換または更衣）
⇒ フレンズ☆SAKAE・主任児童委員からのメッセージ ⇒ 感想記入

【体験の内容】

一クラスをAチーム（妊婦体験ジャケットが先）、Bチーム（オムツ交換または更衣が先）に分ける。
12～13人×6チームとなる。
さかえっ子の笑顔広げ隊メンバー1人と教員1人が1チームに入れるとよいか。
オムツ交換と更衣のどちらがよいかは担当の教員に相談する。

【動画の確認】

- ・動画の演出は良さそう。中学生の興味を引くと思う。
- ・可能ならば、2回分の動画を合体してもらいたい。
- ・中学生に対するメッセージが良いと思う。
- ・最後の『さかえっ子の笑顔広げ隊』の文字はシンプルで良いと思われる。

3 啓発グッズについて

デザイン等調整中の報告。

4 啓発活動について

【配布済み】

12/2 子育て支援団体連絡会 40部

12/5 鍛冶ヶ谷こども会 15部

12/18 社協フードパントリー 50部

【配布予定】

2/5・6 栄区書道展

2/19 第二回社協フードパントリー

6 次回日程

1/21 (金) 15時～ いのちの授業 当日の流れ、役割分担を確認

令和3年度栄区セーフコミュニティ 第1回高齢者安全対策分科会 議事録

日時：令和3年5月10日(月)14時00分～15時30分

場所：Zoom開催

出席者：湯瀬委員、富永委員、大木委員、池田委員、川島委員、室井委員、石井委員、
田邊委員、小林委員、和知委員（欠席 江口委員、福田委員、山形委員）
事務局：長松、小田、平林、新井、小川、熊崎、後藤

1 あいさつ（高齢・障害支援課長 小田より）

2 自己紹介（参加された各委員より）

3 議 事

(1) セーフコミュニティ推進事業の方針について

【資料1】

- ・平成22年度から活動している「セーフコミュニティ推進事業」について、令和2年度中に事業を振り返り、地区連合町内会長及び分科会座長の皆様からいただいた意見を踏まえて今後の方向性を検討し、区の案としてまとめたので報告します。
- ・地域課題に対する地域・区役所・関係機関の協働体制の確立など、セーフコミュニティ推進事業による成果を大切にしながら、より発展的な形となるよう、再々認証の取得を目指さず、これまでの積み重ねを活かした独自の形態での「安全・安心なまちづくり」を推進していきます。
- ・方針の決定は今後開催される推進協議会で行う。また、今後の事業形態については、令和3～4年度にかけて推進協議会や分科会など関係者に意見を伺いながら検討していきます。
- ・令和5年の認証期間満了までは、セーフコミュニティ認証都市としての活動を継続します。

(2) 各団体・地域での事業周知・啓発及び活動報告について

【資料2】

- ・分科会委員を中心として各団体・地域でセーフコミュニティ事業の周知・啓発について協力をお願いします。
- ・今年度、活動報告書の様式を変更しましたので、データを後日分科会の委員宛にメールで送付します。啓発を行った際は「活動報告書」の提出をお願いします。

(3) 令和2年度転倒予防及びヒートショックに関する取組

【資料3】

- ・転倒予防に関するアンケート集計結果
- ・普及啓発報告

・アンケートについては、コロナ禍で活動休止のグループもあり、対象15団体内で10団体の回答でした。回答者のほとんどが要介護認定を受けておらず、転倒予防のために意識して運動、環境整備等に取り組んでいる人が多いという結果がでました。

・普及啓発の実績については、資料のとおりです。コロナ禍で実施回数、参加者数ともに前年度より大幅に減少しましたが、継続的に転倒予防に取り組む団体は多いことがわかります。

(4) 令和3年度のスケジュールについて

【資料4】

- ・転倒予防
- ・ヒートショック対策

・転倒予防の取組については、各種啓発媒体（体操リーフレット・DVD・動画、チラシ）を活用し、関係機関や団体で転倒予防体操の啓発を推進します。広報よこはま栄区版5月号特集記事を掲載や地域の支援者育成を目的として、転倒予防体操フォローアップ研修会を開催予定です。

・ヒートショック対策については、周知強化月間(11月～1月)を中心に、今までの協力機関に加えて、新たに民間事業者や関係団体と協働して啓発をします。

(5) 転倒予防DVD動画について

【資料5】

・資料5に基づき栄区転倒予防体操動画について説明し、実際の動画の一部を抜粋して動画で紹介しましたが、動画の音声が一途切れたり、画像が見えにくかったという意見がありました。

・動画は、Youtubeでのネット配信及びDVDを用意しています。DVDは、ケアプラザ、筋トレ自主会、元気づくりステーション、シニアクラブ、保健活動推進委員会、介護予防・生活支援サービス事業者等に配布します。区、地域ケアプラザでも貸出用も用意していますので、必要時お声かけ下さい。

4 意見交換（今後の活動について）

【普及啓発の方法について】

- ・町内会報と一緒にチラシを配布できないかと考えている。
- ・消防でも出前講座が難しい状況になっている。自粛生活が続く中で、転倒予防の体操がさらに重要になっている。転倒予防体操 DVD の普及の方法について、さらに工夫できるとよい。
- ・スポーツセンターは休館中の取組として、オンラインでの教室や出前講座を考えている。
- ・移動販売も、情報発信の場として活用できるのではないか。
- ・新型コロナワクチンの集団接種会場をチラシ配付等周知の機会として活用できるといい。

【オンラインの活用について】

- ・団体の役員のみではオンライン会議をしているが、なかなかそれ以上広がらない。シニア世代はオンラインでのやり取りではしっくりこないのかもしれない。
- ・対面でないと伝わりづらく難しいところもある。
(今回の会議中に配信した動画については) 音声や画像が途中で切れてしまい、とても見づらかった。
- ・地域のグループでは、オンラインより手紙や電話も活用しているという話を聞いている。
地域ケアプラザでは広報やチラシも活用して情報発信している。
- ・地域ケアプラザでは Wi-Fi 環境が整備され、地域の団体の利用なども可能となっている。
- ・病院でもコロナ禍でイベント等の開催ができず、周知・啓発が難しい状況になっている。
オンラインのチャレンジも検討している。
- ・まずは 1 回やってみて、良い点、悪い点を考えていってもいいかと考えている。
- ・区ホームページの栄区転倒予防体操動画の閲覧数はどのくらいか。(区役所より→現在閲覧数は 300 前後。広報 5 月号での特集後にさらに増えることを期待している)
インターネットを使えない方に DVD を無償で配布などできるといいが、予算の面で難しいのか。(区役所より→DVD は貸出しており、制限なくコピーできるようにはなっている。)
- ・オンライン活用の事例として、区社会福祉協議会のボランティアセンターに施設でのリモートコンサートについての依頼があった。

【送付資料】

- ・転倒予防体操リーフレット、転倒予防チラシ（住環境）、体操 DVD
- ・リーフレット「ケガの予防対策」
- ・リーフレット「安全・安心な入浴のために」・ヒートショックポスター

【第 2 回分科会】令和 4 年 2 月 25 日（金）午後

以上

令和3年度栄区セーフコミュニティ 第2回高齢者安全対策分科会 議事録

日 時 : 令和4年2月25日(金)14時00分～15時00分

場 所 : Zoom 開催

出席者 : 湯瀬委員、富永委員、川島委員、室井委員、石井委員、田邊委員、小林委員、
福田委員、牧野委員

(欠席:江口委員、山形委員、前田委員、大木委員、和知委員)

事務局 : 平林、新井、小川、熊崎、後藤

挨拶(座長 湯瀬委員より)

出席委員紹介

1 議 事

(1) 転倒・転落予防の取組

・令和3年度実施評価・令和4年度取組について

【資料1】

- ・転倒予防体操の研修会や転倒予防体操動画の啓発、筋トレ自主会・元気づくりステーション、サロン等への取組実績把握を行いました。
- ・コロナ禍で地域グループの開催回数は減少しており、運動不足や人との交流の減少を補うためにも、今後も自宅で取り組める転倒予防体操動画を普及啓発していきます。

(2) ヒートショック対策

令和3年度実施評価・令和4年度取組について

【資料2】

- ・普及強化月間(11月～2月)を中心に、自治会町内会掲示版、医療機関、薬局、区民利用施設等でのポスター掲示、シニアクラブやサロンでリーフレットを活用して啓発を行いました。
- 令和3年度の啓発実績報告については、2月まで啓発強化月間のため、令和4年度の第1回分科会で報告します。

(3) 令和4年度の高齢者安全対策分科会スケジュールについて

【資料3】

- ・転倒予防については、転倒予防体操動画、リーフレットを活用して、各関係団体と協働し普及啓発を行います。
- ・転倒予防体操研修をサロン等の代表者を対象に開催します。
- ・ヒートショック対策については、周知強化月間(11月～2月)を中心に、ポスターの掲示、リーフレットの配付等、各関係団体と協働し普及啓発を行います。

2 意見交換

- ・消防署ではヒートショックについて防災指導講座などで啓発している。転倒予防については、「けが予防対策」の冊子を出前講座等で配付している。セーフコミュニティの取組に足並みをそろえて今後も進めていきたい。
- ・元気づくりステーション等、グループでの転倒予防体操啓発の実績が少ないのは、コロナ禍の影響も大きいですが、コロナが落ち着いた後もグループ活動が元に戻るか不安がある。筋トレ自主会や元気づくりステーションは、長いところは約15年経過し、運営への不安や迷いが出てきている。グループリーダー間の連携やノウハウを得る機会をもって、各グループへの支援をして立て直していければと思う。
- ・栄区で盛んに取り組まれている本山式筋トレができなくなってきた方を、次の居場所へどうつなげるかが課題。その一つが転倒予防体操かと思い、普及したいが、コロナ禍でちらし配付の機会もなかなか無い。活動に出てくる人と出てこない人の二分化の状況がある。
- ・とにかく多く配ろうと思い、シニアクラブや元気づくりステーションにて、転倒予防体操リーフレットを配付して「こんにちは どっこいしょ」は必ずやってくださいとお伝えしている。これから町内の細かい集まりへ広げていきたい。
- ・保健活動推進員の立場から、健康寿命の延伸を目指して、健康・運動・社会参加・オーラルフレイル予防を進めている。このまま放っておくと衰えてしまう。地域のグループの担い手が減っており、新しい人が増えてこないという課題もある。
- ・ケアプラザだよりもコグニサイズやポールウォーキングの写真入りの取材記事を掲載すると、やってみたいと参加希望が増えた。いろんな取組をしないと人が増えないため、まず取組を始めることが大切。人が集まる時にアンテナを張って、心配な人はいないかなと、目を掛け声を掛けていくことが必要。いつまでも集まってワイワイ笑って帰ってもらいたい。
- ・シニアクラブ連合として、令和4年はフレイル予防に取り組みたい。外出自粛で足腰が弱くなり転倒してしまった人もいる。認知症予防と転倒予防は介護予防の2つの柱だと思う。みんな楽しく集まれるところを作りたい。外で会合を開いたり食事はできないが工夫している。
- ・つながるプラン(栄区地域福祉保健計画)の計画の中に、ヒートショックの啓発や転倒予防の啓発があげられている。啓発は繰り返し行うことが必要である。区民意識調査のヒートショックの取組で、「お風呂のお湯の温度を41度以下にする」、「湯舟には10分以上連続で入

らない」の回答が前回調査より増えていることから、地道な啓発が活きているとわかった。

- ・ スポーツセンターは令和5年2月末まで休館中だが、出張教室などできるだけ地域へ出てやっていきたい。令和3年度は翠風荘、令和4年度は区内の地域ケアプラザよりフレイル、転倒予防について依頼がきている。
- ・ 地域ケアプラザは、地域の体操などの団体を把握しているが、以前は横のつながりができていたが、コロナ禍で満足いく活動ができていない。オンラインなど、できるところを一緒に考えながらやっていきたい。

各団体の活動を発信していくことも大事なので、地域ケアプラザでも意識して取り組んでいきたい。移動販売の場など活用していくなど、区社協の意見も伺いたい。

- ・ 普及啓発の取組は、いろんな切り口や、きっかけづくりが大事である。会うことも含め、人とのコミュニケーションや場面が大事。

3 依頼事項

令和4年度分科会委員について

令和4年度分科会委員について、令和4年4月8日(金)までに別紙にてご返答ください。

【送付資料】

- ・ 転倒予防体操動画 チラシ
- ・ ヒートショック対策（ポスター・リーフレット）
- ・ 「コロナフレイルにご注意を！」 チラシ



書面開催のため、議事録等はありません。



令和2年度

第1回 栄区セーフコミュニティ推進協議会 災害安全対策分科会

書面により開催

報 告

- 1 令和元年度地域防災拠点訓練実施状況について

議 題

- 1 セーフコミュニティ災害安全対策分科会からの提言について

※次回分科会は令和2年10月頃を予定しています。

書面開催のため、議事録等はありません。



令和2年度 第2回 栄区セーフコミュニティ推進協議会 災害安全対策分科会

書面により開催

報告

1 令和2年度災害安全対策分科会活動について

資料1

2 令和2年度地域防災拠点訓練実施状況について

資料2

令和2年度 栄区セーフコミュニティ 第1回自殺予防対策分科会

令和2年9月（書面開催）

1 令和2年度栄区の自殺予防対策の取組について ……資料1

例年実施している駅前のキャンペーンは中止し、図書館の展示のみ行っています。
また、サポーター養成研修は、転入職員研修が集ってできなかったため、方法を変更し、下半期に行われる人権研修で行います。
3月のキャンペーンの実施については、感染症の状況をみながら検討します。
なお、新型コロナウイルス感染症によりイベントが中止になるなどこれまでの広報の機会が減っている状況ではありますが、9月10日に出された厚生労働省の通知及び大臣メッセージにもあるように、相談窓口につなげることができるよう、広報してまいります。

2 地域自殺実態プロファイルについて ……資料2-1 横浜市 資料2-2 栄区

栄区の重点パッケージ及び特徴に変化があります。
重点パッケージでは、「無職者・失業者」がなくなり「高齢者、生活困窮者、勤務・経営」となりました。
また、特徴として、「男性20～39歳無職同居」が上位5位に入ってきています。この年齢層は、横浜市では上位5位に入っていません。
今回のプロファイルは2019年（令和元年）のものです。感染症による生活様式の変化の影響があるのかどうか、引き続き状況をみていきます。

3 横浜市自殺対策計画 ……冊子 概要版

これまでの分科会で原案についてご説明してきましたが、印刷製本され発行されましたので、お渡しします。

4 その他

- ・横浜市 9月自殺対策強化月間の取組（記者発表資料） ……資料3

<配付>

- ・委員名簿
- ・取組の体系
- ・厚生労働大臣からのメッセージ

令和2年度 第1回 防犯対策分科会会議録	
日 時	令和2年8月19日(水) 10時00分から
開催場所	栄区役所本館1階会議室
出席者	委員：持田、岡田、中村、内藤、小川(敬称略) 事務局：根本、石塚、鶴池
議 事	<p>1 簡易型自動通話録音機「録音チュー」の配布について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から2年度簡易型自動録音機「録音チュー」について1,000個購入したことの報告と配布方法について、説明があった。 ・民生委員を中心に配布、あわせて自治会町内会へ協力依頼することを決定した。 ・どのような人が詐欺に騙されやすいのかという質問に、栄警察より自治会・町内会との関わりがあまりない人が特に騙されやすい傾向にあると話があった。 <p>2 合同パトロールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、合同パトロールについて説明があった。 ・栄区全体として以前と比べるとパトロール活動が活発ではなくなったとの意見があった。 ・事務局からも地域の防犯パトロールに参加したいと意見があった。 <p>3 振り込め詐欺に関するアンケートの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から令和2年度振り込め詐欺に関するアンケートの実施について説明があった。 ・アンケートの内容についても、どういった内容の手口が多いのか、詳しく回答していただく必要があると意見があった。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄警察署より令和2年8月現在の詐欺被害件数の報告があった。前年の同時期に比べると被害件数が減少している。また、詐欺手口についてもキャッシュカードすり替え型が多かったが、最近では、オレオレ詐欺の被害もでているので、改めて注意喚起が必要との連絡があった。
資 料	<p>1 簡易型自動録音機「録音チュー」について</p> <p>2 振り込め詐欺に関するアンケート</p> <p>3 サギ被害にあわないために！【栄警察署】</p>

令和3年度 第1回栄区傷害サーベイランス分科会 議事要旨

日 時	令和3年9月6日（月）10時～11時15分
場 所	栄区役所本館4階 2号会議室（Zoom 併用）
出席者	<p>【傷害サーベイランス分科会委員】</p> <p>■オンライン 田高座長（北海道大学大学院）、大原委員（横浜国立大学大学院）、 小田原委員（横浜市立大学）、豊田委員（聖徳大学）、垣内委員（近畿大学）</p> <p>■会場 小川委員（栄警察署）、池田委員（栄消防署）、西野委員（栄区福祉保健センター）</p> <p>【傷害サーベイランス分科会事務局】 永松区政推進課長、高橋地域力推進担当係長、安井、村山</p> <p>【栄区役所】 富士田区長</p> <p>【分野別分科会事務局】 和田こども家庭支援課長（児童虐待予防）、小幡障害者支援担当係長（自殺予防）、 山崎こども家庭課担当係長（こども安全）、平林高齢者支援担当係長（高齢者安全）、 山口危機管理・地域防災担当係長（災害安全）</p>
欠席者	滝川委員（栄警察署）、平間委員（同左）、分野別分科会事務局（スポーツ安全、交通安全、防犯）

発言者	<p>1 議事</p> <p>【1】今後のセーフコミュニティ推進事業の進め方について（報告） 事務局から、資料1に沿って報告 <質疑なし></p> <p>【2】令和3年度 of 取組状況について（報告） 事務局から、資料2に沿って報告 <質疑なし></p> <p>【3】<令和5年度以降の事業>データを活かした事業構造について（意見交換） 事務局から、資料3及び参考1～3に沿って説明 現時点で区として決まっている段階ではなく、これから検討に入る段階。学識経験者の皆様の御意見をお聞きしてより良いものにしたい。 特に「データを活かした事業構造」について御意見をいただきたい。</p> <p>田高座長 参考1に示されている後継事業の前提は、これまでセーフコミュニティ推進事業に関わってきた者として賛同できる前提である。分科会についての整理と地福計画との整理は重なる部分もあるだろう。組織の形、活動の主体、学識経験者の関わりはどのような形が良いのかなど、先生方にアイデアを伺いたい。</p>
永松課長	
永松課長	
永松課長	

豊田委員	<p>参考1にもある通り、現在の枠にこだわらず安心・安全なまちづくりについて考えていかなければいけない。区には地福計画だけでなく様々な部署の関連する計画があると思うので、それらと一緒に考えていく必要がある。</p> <p>地域住民の課題を吸い上げることは、地域住民の関心を引く点でも効果があるだろう。地福計画の地区別計画作成にあたっては、各地区で色々な話し合いをしており、セーフコミュニティと重なる部分が多くある。地福計画もそれ以外も地域では同じ人がやっていたりするので、仕組みについては考え過ぎなくても良いのかなと思う。地福計画の第4期計画とうまく重ねながらセーフコミュニティの最後の二年間を進め、地域の人に浸透できればよいと思う。</p>
永松課長	<p>地域住民の課題の吸い上げ方については、地区別にするのか、区全体として行うのかはまだ整理できていない。</p>
大原委員	<p>参考3を見ると、必須の業務として、指標に基づくデータ収集の作業が優先され、新しいテーマや課題に取り組めないという現場の問題が出てきているのかなと感じた。その対応については関係者で考えていけばいいと思うが、一つの案としては、新しいテーマ・課題を各分科会や各部署から募集し、3年など期限を区切ってプロジェクトチームとして新しく始めるといった、一時的な委員会・ワーキンググループを作る方法もあるのかなと思う。</p> <p>たまたま最近、栄区内で調査をしたところ、取り組んだら良いと思われるテーマが浮かび上がってきたので、参考までに話題提供として少し紹介する。</p> <p>1年半ほど前、上郷東地区のまちづくりに関する調査に豊田先生と共に関わった。坂道が多い高台の地域での高齢者の生活に関心を持ち、コロナ禍の直前である2019年2月に空き家の調査などもあわせて庄戸地区でアンケートを行った。</p> <p>どのような場所で転倒事故が起きているのかを尋ねたところ、「歩道」という回答が多くあった。家を出るとすぐに坂道であるという丘陵地であるとともに、街路樹の根が上がってしまい地面が凸凹になってしまっている所があるなど、環境として歩道に問題があるということが一つの発見だった。この結果は地域にも区政推進課にも結果を共有している。地域の人に認識してもらい、危険な道路の点検をするなどの活動に繋がってくれたらいいと思っていたところである。</p> <p>なお、アンケートの中でこの一年以内に転倒したことがあるかを聞いたところ、65歳以上の住民の4分の1が「1年以内に転倒の経験がある」と答えている。セーフコミュニティの高齢者安全対策分科会では救急搬送件数を指標データとしているが、歩道で転んで擦りむいた程度では救急車は出動しないため、軽傷でも危険が多い場所として、家庭内だけでなく歩道が重要なのかなと思う。</p>

永松課長	<p>こうしたことは一つの課題として挙げられる。「地域の人に自ら感じてもらい、問題意識として持ってもらい、対応を考えていってもらおう」という新たなテーマを一連として対応することが重要だろうと感じた。</p>
池田委員	<p>大原先生のお話のように、データに基づいて地域の方に課題認識を持ってもらう方法のほかに、地域の皆さんが日々課題と感じていることに対してデータを添えていく方法もあると考えている。</p> <p>高齢者安全対策分科会に参加している。大原委員のお話のとおり、「救急車の出場件数＝けがの数」ではない。出場しても、本人が「大した事はない」と言って乗車を断る場合もある。近年救急車の出場件数は右肩上がりであり、消防署としても高齢者のけがを予防し出場件数を抑制するべく取り組んでいるが、高齢者が増加する中ではなかなかうまくいかない。現在の課題としては、コロナ禍で区民に直接周知できる機会が少なくなっていること。高齢者はスマートフォンなども敬遠しがちなので、今後どのように啓発をしていくのかが課題と思っている。</p> <p>個人的には、分科会を継続してこうした課題に対して皆さんのお知恵をいただきたいと思っている。</p>
永松課長	<p>救急搬送件数以外のデータも参考にする必要がある。</p>
小田原委員	<p>私が参加している自殺予防対策分科会は地域で共有しづらいテーマではあるが、最近の学会の動向を見ると、一次予防（不調を未然に防ぐこと）としてのメンタルヘルスプロモーションの一環として、自殺予防活動が地域に広がってきているようだ。産後うつや育児ノイローゼといった分野でのメンタルヘルス対策の取組が自殺予防に成果を出しているという長野県のモデルケースもデータとして出てきている。</p> <p>今後ポストコロナ時代の課題として特に大きいのは高齢者の孤立だと思う。まちづくりにコロナとの共存がどう影響してくるか不明な点ではあるが、自殺の点では若年層女性の自殺が増えている。対象者バイアスはあると思うが、経済的な問題というよりも、孤立・孤独というものが相談者の中で大きな問題としてあることも分かってきた。</p> <p>安全・安心のまちづくりの中で、「人との関わりを通じた」という文脈を視点としてしっかり入れていくのが重要なのではと思う。自殺予防対策を前面に出すのではなく、地福計画の中で既に介入している年齢層の取組の中に心の問題を入れ込んでいけると良い。現在の分科会の活動はハイリスク者へのアプローチが主になっているので、そこから一歩踏み込んでいければ良いと思う。</p>
永松課長	<p>地域コミュニティにおける見守りの重要性は大きいので、継続して取り組んでほしいという要望は地域からもある。人との関わりや地域との関わりを重視する姿勢は栄区の特徴でもある。そこを中心に取組を考えていきたいと思う。</p>

永松課長	<p>体制等を中心にお話しいただいているが、データを活かした事業構造に関しては体制が前提でないと議論が難しいか。</p>
垣内委員	<p>先ほど大原先生のお話にあった、転倒がどの場所で起きているかは貴重なデータである。法医学者として家庭内の不慮の事故に関する研究をしている。国からデータ提供を受けて分析をするが、転倒事故全体の発生件数の半分くらいしか受け取っていないように感じて、もしかしたら屋外で起きているのではとと思っていた。こうしたボトムアップのデータと国や市の関係局等からのトップダウンのデータの両方を見られるのは非常に強みになると思う。</p> <p>5年前横浜市の医療局に在籍していた時は、エビデンスに基づいた在宅医療の政策を進めるため、死亡個票の分析をしていた。そうした貴重なデータを局などは持っている。パイロットスタディ（予備調査・予備研究）的に検討してほしいこととして、セーフコミュニティ開始から10年を経て更に進めるため、区と局のタイアップで政策コンテストのようなものをしてはどうかと思う。セーフコミュニティもそうした中で提案されたかと思うが、栄区は18区の中でも高齢化率が高く、ある意味モデル地区だと思う。セーフコミュニティの10年間の取組に関する効果検証にあたって非常に貴重なデータだと思う。</p>
永松課長	<p>新型コロナウイルス感染症対応で福祉保健センターが繁忙であるため、現時点でパイロットスタディに取り組めるとはいえないが、栄区として特徴的な分野に取り組めるような仕組みにしたいと思う。</p>
垣内委員	<p>負担が大きいのであれば、我々学識経験者を活用いただくなど、協働して取り組んでいければと思う。</p>
田高座長	<p>計画の進め方について、資料3にあるOODAループの出発点である「地域の課題を抽出する」ことについては、地域の「目」と「手」を借りて出発し、そこに学識経験者等が少し関わる中で、取り組むべき課題の分析や方向付けに関与していけるような形をパイロットスタディとしてモデル的にやってみたら良いのではと思う。地域の課題としては、先ほどの庄戸の例でいう転倒のほか、隣人の孤独死や孤立死も一つだろう。さまざまなレベル・精度のものが挙がってくるだろうと思う。</p> <p>令和5年10月が認証満了で、それまではセーフコミュニティのコンセプトの下で進めていきながら、10月以降に後継事業が動き出せるようにするためには、認証期間中にパイロットスタディを1つでも2つでも試みることが必要だと思う。関連する地福計画も入れていった方が良いのでは。一方、孤立している人たちの「目」と「手」は届きにくいと、メンタルヘルスなど見えにくい課題が上がりにくい可能性がある。地域からの発出であったとしても、学識経験者がそこに1～2問を投げかけたりしながら、地域課題の抽出（オブザーブ）から課題分析（オリエント）までのプロセスを進める計画を関係者に理</p>

永松課長	<p>解してもらいながら進めてもらえればいいのではと思う。</p> <p>学識経験者からのエビデンスの提供については、地域からの課題の発出が前提としてあり、そこに根拠や肉付けとしていくのが主になるかなと考えている。あわせて令和5年10月に向けては、セーフコミュニティと後継事業のモデルを並行して走らせていく必要があるというのはその通りだと思う。令和4年の早いうちに固めて進めて行ければと思う。</p>
田高座長	<p>大原先生が実施した調査は、庄戸で過去1年に転倒した人が調査対象か。</p>
大原委員	<p>庄戸の一般住民1,178世帯を対象に調査した。高齢者の生活をテーマとして、一世帯2枚ずつ配布し、年齢の高い順に2人回答してもらったところ、回答者の8割が65歳以上、そのうち4分の1が1年以内に転倒経験あり、転倒場所の4割が歩道という結果だった。私は建築が専門なので、住宅の状況を聞きたいと思っていたが、丘陵地のため道路から自宅に上がる階段なども問題であるということが見えてきた。バス車内での転倒の例もあると聞いており、場所を「その他」と回答している35%の中身も色々あるのだろうと思う。</p>
田高座長	<p>転倒による外傷の有無は調査項目にあったか。</p>
大原委員	<p>外傷の程度は聞いていない。逆に、軽いものも含めて危険なところを探したいという趣旨だった。</p>
田高座長	<p>救急搬送につながるような転倒も重大である一方で、報告されないものも重要だと感じる。生活への影響ということで言えば、転倒をきっかけに外出を控えるようになる、閉じこもりがちになる、自信を失うなど、転倒というイベント自体が高齢者には広くリスクがあると感じられ、興味の尽きないところ。大変興味深いデータである。</p>
豊田委員	<p>地福計画以外にも、地域包括ケアの指針等、横浜市全体や栄区として複数の指針や計画があると思う。パイロットスタディを行って方針を決める時に、栄区らしさとか方向性としては、こうしたいくつかの行動指針とこれまでのセーフコミュニティの取組の連携に力を入れてほしい。そうすることで、どのような取組がどのような効果をもたらすのかについて、有益な発信ができると思う。認証が満了するまでにある程度の方向性が出せると良い。</p>
永松課長	<p>栄区がこれまでに策定した指針や計画も、地域の声を聞きながら作っている。栄区の特徴を踏まえているため、それらを活かしながら後継事業を考えていきたい。</p> <p>次回の傷害サーベイランス分科会については、例年2月頃に開催している</p>

	<p>が、新型コロナウイルス感染症の状況を見てまたお知らせしたい。本日はありがとうございました。</p>
--	--

以上